

令和6年度消費・安全対策交付金 評価概要一覧

(1) 食料安全保障確立対策推進交付金(一般交付型)

目的	目標	目標値、実績値及び達成度				事業評価	
		目標値		実績値	達成度	判定	評価概要
Ⅰ 農畜水産物の安全性の向上	農薬の適正使用等の総合的な推進	農薬の不適切な販売及び使用の発生割合	5.2%	3.4%	104%	A	当事業により、農薬の適正販売・適正使用に対する啓発強化が図られ、農薬適正販売・適正使用の意識向上に繋がっている。 今後も農薬販売店の立入検査や、農薬管理指導士認定、研修会等の様々な方法で、農薬の適正な販売・使用に向けた指導と啓発を継続して実施していきたい。
	海洋生物毒等の監視の推進	貝毒発生調査のモニタリングの総実施数	22回	22回	100%	A	関係者と協議を行い、漁獲実態や養殖実態に合わせた調査定点と回数を柔軟に設定したことで、貝毒の発生状況の有無を確認することができ、人身被害の未然防止に繋げることができた。
Ⅱ 伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	家畜衛生の推進	家畜衛生に係る取組の充実度	103.3	109.4	105%	A	死亡牛サーベイランス検査によりBSEの清浄性及び防疫対策の有効性を確認でき、本県産牛肉の食の安心・安全を担保することができた。 また動物用医薬品等品質検査により動物用医薬品の適正な流通や使用を監視することで畜産物の安全性確保に貢献できた。 さらに豚熱等のPCR検査に係る関連機器を導入することにより適正な検査を実施する環境を整備し家畜衛生対策の推進につながった。
	養殖衛生管理体制の整備	養殖衛生管理指導を実施した経営体数の養殖等経営体総数に占める割合	90%	100%	111%	A	講習会等の開催のほか、診断・検査対応や啓発文書送付等により、目標を上回る養殖衛生管理指導を実施できた。
	病害虫の防除の推進	従来の防除対策では防除が困難な作物の防除体系等における防除に関する管理手法の現状値からの向上率	150	150	100%	A	「発生/パターンの変化や使用可能な農薬の減少により防除が困難となっている作物に対する防除体系の確立」においては、現地実証試験の実施等により、県内におけるサツマイモ基腐病等に対して役立つ総合的な防除対策に係る知見や技術が得られた。 「薬剤抵抗性病害虫・雑草により防除が困難となっている作物に対する防除体系の確立」においては、県内で栽培が盛んなピーマン栽培において天敵を用いた病害虫の防除体系の普及が進む中、今後の課題になると考えられるアブラムシの薬剤抵抗性試験に関する知見や技術が得られた。 「基幹的マイナー作物の病害虫・雑草防除技術体系の確立」においては、県内で栽培されるにがうりにおける農薬の登録適用拡大に向けた試験を実施し、効果的な防除体系の確立につながる知見が得られた。
Ⅲ 地域での食育の推進	地域での食育の推進	別紙のとおり				A	各実施主体において、県や市町村の「食育・地産地消推進計画」に基づき、地域目標の達成に向けた取組を行っており、計画推進において重要な取組であったと考える。

(2)食料安全保障確立対策推進交付金(特別交付型)

目的	目標	目標値、実績値及び達成度			事業評価	
		目標値	実績値	達成度	判定	評価概要
Ⅱ 伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	家畜衛生の推進	豚熱及びアフリカ豚熱のまん延防止	豚熱及びアフリカ豚熱の県内発生件数 0件	達成	適正	ASF・CSFがアジアの広範囲で発生拡大している中、水際防疫対策を強化することで県内農場での発生を防ぐことができたと考えられ、評価できる。
	家畜衛生の推進	高病原性鳥インフルエンザのまん延防止	高病原性鳥インフルエンザの県内発生件数 2件	達成	適正	国内で高病原性鳥インフルエンザの発生が多数確認された中、本県においても2例の発生があった。それぞれの発生事例に対して、迅速な防疫措置を実施することにより更なるまん延を防止することができたと思われる。
	家畜衛生の推進 (※R5補正本省繰越)	豚熱及びアフリカ豚熱のまん延防止	豚熱及びアフリカ豚熱の県内発生件数 0件	達成	適正	野生イノシシへの豚熱及びアフリカ豚熱のサーベイランスを強化することにより積極的なウイルス浸潤状況の把握を行うことは、農家段階での家畜伝染病発生予防に有効であり、農場におけるASF及びCSFの発生がなかったことから本事業の効果があつたと評価できる。

(3)食料安全保障確立対策整備交付金(令和4年度事業分)

※整備交付金については、事業を実施した年度から起算して三カ年経過した年度に成果のとりまとめ及び事後評価を行う

目的	施設名	目標値、実績値及び達成度				事業評価	
		目標値		実績値	達成度	判定	評価概要
Ⅱ 伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	野生動物侵入防止柵	施設の活用によるバイオセキュリティの向上率	100.24	100.24	100%	A	周辺に野生動物が多い当該農場において、防止柵を設置することで、野生動物の侵入防止に有効であったと評価できる。
Ⅱ 伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	野生動物侵入防止柵	施設の活用によるバイオセキュリティの向上率	101.64	101.64	100%	A	山間部に位置する農場において、防止柵を設置することで、野生動物の侵入防止に有効であったと評価できる。
Ⅱ 伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	野生動物侵入防止柵	施設の活用によるバイオセキュリティの向上率	200	200	100%	A	山間部に位置し周辺に野生動物が多い当該農場において、防止柵を設置することは、野生動物の侵入防止に有効であったと評価できる。
Ⅱ 伝染性疾病・病害虫の発生予防・まん延防止	野生動物侵入防止柵	施設の活用によるバイオセキュリティの向上率	200	200	100%	A	新設した畜舎において漏れなく防止柵を設置することは、野生動物の侵入防止に有効であったと評価できる。

別紙

(1)食料安全保障確立対策推進交付金(一般交付型)「Ⅲ 地域での食育の推進」

事業実施主体	事業メニュー	目標項目	目標値	実績	達成度	判定
都城市	1 課題解決に向けたシンポジウム等の開催 2 学校給食における地場産物活用の促進	・食文化の継承度	70.9%	66.3%	93.5%	A
		・学校給食における地場農林畜産物の使用割合	50.6%	47.1%	93.0%	
		・産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	74.9%	67.5%	90.1%	
小林市	1 食育推進検討会の開催 2 課題解決に向けたシンポジウム等の開催 3 食文化の保護・継承のための取組支援 4 農林漁業体験の機会の提供	・産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	77.3%	72.5%	93.7%	A
		・食文化の継承度	65.3%	71.3%	109.1%	
		・農林漁業体験を経験した者の延べ人数	380名	384名	101.0%	
西米良村食育・地産地消推進協議会	1 食文化の保護・継承のための取組支援	・食文化の継承度	74.8%	88.9%	118.8%	A
		・産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	74.9%	55.6%	74.2%	
みやざきの食と農を 考える県民会議	1 食育推進検討会の開催 2 食育推進リーダーの育成及び活動の促進 3 食文化の保護・継承のための取組支援 4 農林漁業体験の機会の提供 5 学校給食における地場産物等活用の促進 6 食品ロスの削減に向けた取組 7 課題解決に向けたシンポジウム等の開催	・食文化の継承度	92.5%	98.3%	106.2%	A
		・食育の推進に関わるボランティア数	143名	134名	93.7%	
		・農林漁業体験を経験した者の延べ人数	530名	456名	86.0%	
		・学校給食における地場産物を使用する割合	63.9%	59.9%	93.7%	
		・食品ロス削減のために何らかの行動をしている者の割合	78.5%	86.2%	109.8%	
		・産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合	40.6%	33.6%	82.7%	